

《薬局サーベイランスコメント》

『第 46 週は前週と比べて大きく増加。インフルエンザの患者数は今後本格的に増加していくものと予想される』

2019 年 11 月 19 日
済生会中津病院感染管理室
安井 良則

今シーズン（2019/2020 年シーズン）の薬局サーベイランスコメントを開始します。
薬 局 サ ー ベ イ ラ ン ス
(<http://prescription.orca.med.or.jp/syndromic/kaniyasuikei/index.html>) からの 2019 年第 46 週(11 月 11 日～17 日)のインフルエンザの 1 週間当たりの推定患者数は約 61,000 であり、第 43 週以降 4 週連続して増加が続いています。今シーズンは薬局サーベイランスでの全国的な流行開始の目安である推定患者数 30,000/week を第 37 週と早々に超えており、その後の推定患者数は増減を繰り返していましたが、第 46 週は前週（第 45 週：11 月 4 日～10 日）の推定患者数（約 33,000）を大きく上回っており、今後インフルエンザの患者数は本格的に増加していくことが予想されます（図 1）。また、休日明けの第 47 週の月曜日（11 月 18 日）の 1 日当たりの推定患者数は約 21,000 と今シーズンの最多を更新しています。

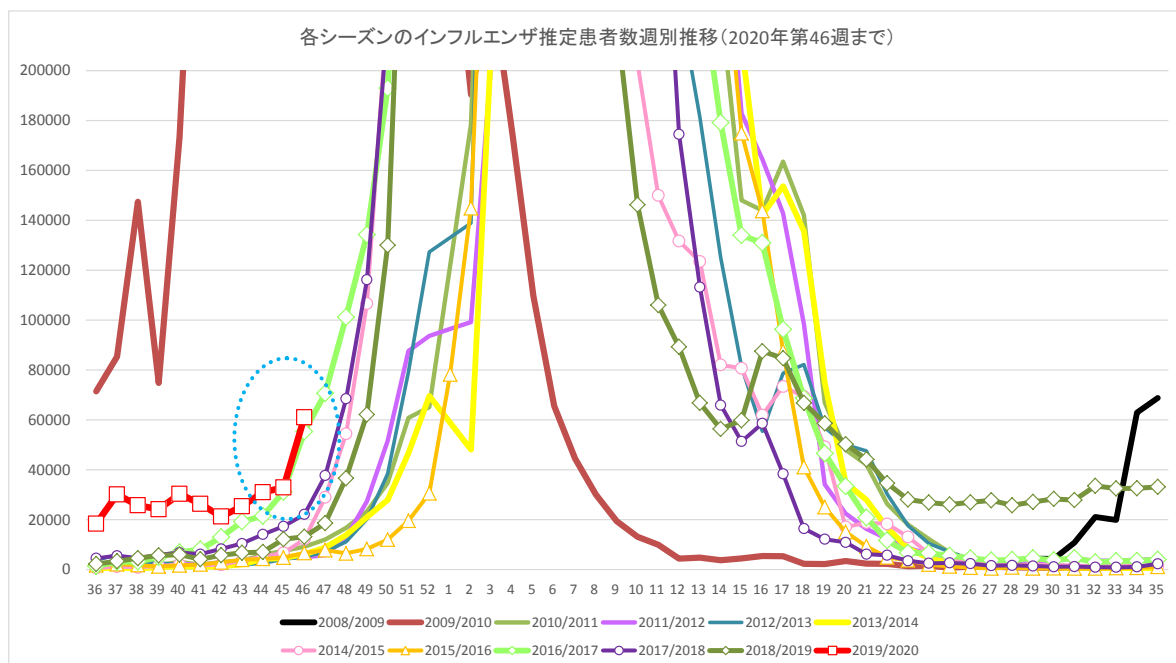


図 1. 過去 11 シーズンと今シーズン（2019/2020 年シーズン）の第 36～第 46 週までのインフルエンザ推定患者数の週別推移

2019 年第 36 週から第 46 週までの累積の推定患者数は約 32,6000 であり、年齢群別では 5～9 歳（19.8%）、0～4 歳（14.0%）、10～14 歳（13.7%）、40～49 歳（13.5%）、30～39 歳（12.0%）の順となっていて、には小児の罹患割合が高くなってきています（図 2）。

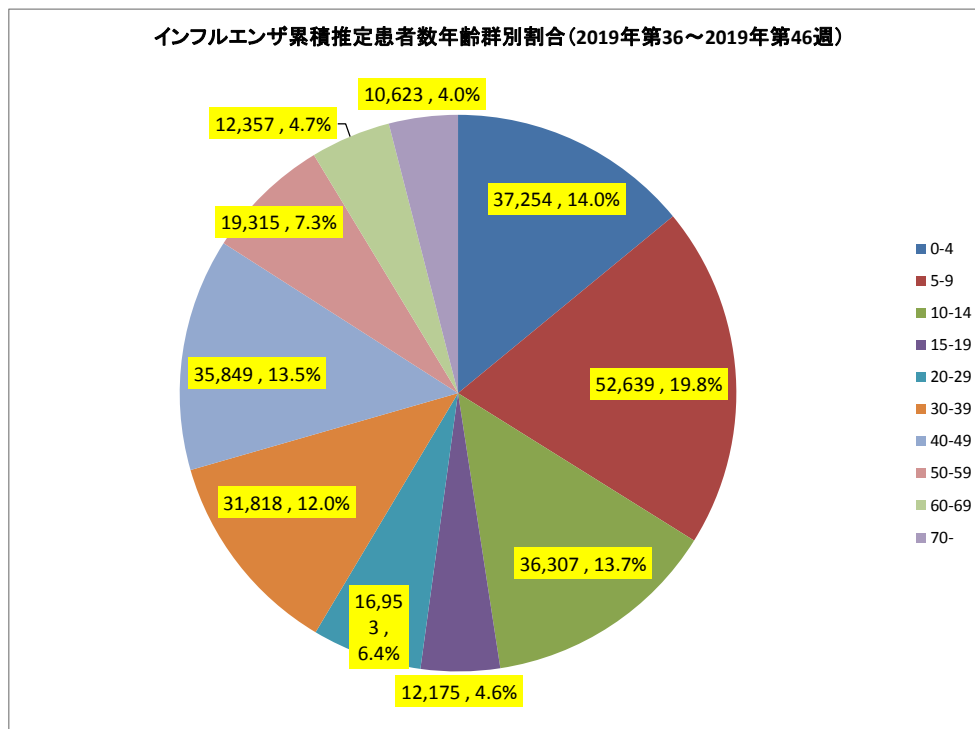


図 2. インフルエンザ累積推定患者数年齢群別割合（2019 年第 36～2018 年第 46 週、累積推定患者数=約 32,6000）

国立感染症研究所感染症疫学センターの病原微生物情報（<https://www.niid.go.jp/niid/ja/iasr.html>）によると、今シーズンこれまでのインフルエンザ患者由来検体から検出されたインフルエンザウイルス（374 検体解析）は、A/H1pdm が 88.0%と多く、次いで A/H3（A 香港）亜型 6.7%、B 型 5.3%の順となっています。

第 46 週は大きな増加がみられており、インフルエンザの患者数は今後本格的に増加していくものと予想されます。インフルエンザの患者発生動向については注意が必要です。